



コール

- アナログ電話で通話を発信する (1 ページ)
- アナログ電話機から番号をリダイヤルする (2 ページ)
- 短縮ダイヤルコードを使用してコールを発信する (2 ページ)
- ATA 電話機で通話に応答 (2 ページ)
- ATA 電話機で待ち受け電話に応答する (2 ページ)
- アナログ電話で通話を保留にする (3 ページ)
- アナログ電話機のコールを別の番号に転送する (3 ページ)
- アナログ電話機からコールを転送する (4 ページ)
- アナログ電話で電話会議を開始する (4 ページ)
- アナログ電話機のコール機能とスターコード (5 ページ)
- アナログ電話機で緊急コールを発信する, on page 5

アナログ電話で通話を発信する

アナログ電話機は、Cisco IP 電話と同じように動作します。

手順

- ステップ 1** 受話器を上げ、ダイヤルトーンを確認します。
 - ステップ 2** (任意) 外線発信のための数字をダイヤルし、ダイヤルトーンが聞こえるまで待ちます。
 - ステップ 3** 電話番号をダイヤルします。
-

アナログ電話機から番号をリダイヤルする

手順

ステップ1 受話器を上げ、ダイヤル トーンを確認します。

ステップ2 *07 をダイヤルします。

短縮ダイヤルコードを使用してコールを発信する

電話機のキーパッドで*1 と *199 の間のインデックス コードを入力することにより、短縮ダイヤルを実行できます。

始める前に

短縮ダイヤル コードは、Webex の設定 で設定します。

手順

ステップ1 受話器を上げ、ダイヤル トーンを確認します。

ステップ2 発信する番号の短縮ダイヤル コードをダイヤルします。

ATA 電話機で通話に応答

アナログ電話（ATA）は、Cisco IP 電話機と同じように動作します。

手順

アナログ電話機の呼び出し音が鳴ったなら、受話器を上げてコールに応答します。

ATA 電話機で待ち受け電話に応答する

アクティブ コール中にコール ウェイティングが発生すると、ビープ音が一度聞こえます。

手順

- ステップ1** フック フラッシュを実行すると、待機している発信者と話すことができます。2番目のコールに接続され、最初の発信者は保留になります。
- ステップ2** (任意) 最初の発信者と話すには、再度フック フラッシュを実行します。以降、フック フラッシュを実行するたびに2人の発信者が交互に切り替わります。この方法で電話会議を行うことはできません。
-

アナログ電話で通話を保留にする

アクティブ コールを保留にしたり、準備が整ったときに保留中のコールを再開したりできます。

手順

- ステップ1** アクティブな通話中にフック フラッシュを実行します。
- ステップ2** コールに戻るには、次のいずれかを実行します：
- もう一度フック フラッシュを実行します。
 - 受話器を置きます。電話機の着信音が鳴ったら受話器を取ります。
-

アナログ電話機のコールを別の番号に転送する

席を離れている間も重要なコールを逃さないようにする場合は、別の電話番号にコールを転送します。

手順

- ステップ1** コール転送を開始するには、アナログ電話で ***72** を押し、コールの転送先番号を入力し、**#** を押します。
コール転送が開始されたことを示す音が聞こえます。
- ステップ2** コール転送を停止するには、アナログ電話から ***73** を押します。
コール転送が停止したことを示す音が聞こえます。
-

アナログ電話機からコールを転送する

コールを転送した場合、他の担当者が応答するまでは、元のコールに接続した状態を保つことができます。コールから自分を切断する前に、相手と個別に話をすることができます。

話す必要がない場合は、転送先の相手が応答するのを待たずにコールを転送します。このアクションはブラインド転送と呼ばれます。

また、コールから自分を切断する前に、両方の通話者の間で切り替えて、両者とそれぞれ個別に話し合うこともできます。

手順

ステップ1 保留中ではないコールで、フラッシュ ボタンを押します。

これにより元のコールは保留になり、ダイヤル トーンが聞こえてきます。

ステップ2 次のいずれかの操作を行います。

- 転送先の相手の電話番号を入力します。
- 電話のキーパッドで ***98** を押し、転送先の相手の電話番号を入力した後、**#** を押します。

ステップ3 (任意) 着信音が鳴るか、相手がコールに応答するまで待ちます。

ステップ4 (任意) 転送先の相手が応答するまで待つ場合は、転送先の相手に電話の発信者が誰かを伝えます。

ステップ5 受話器を置くと、転送は完了です。

アナログ電話で電話会議を開始する

1つのコールで複数の相手と話し合うことができます。

手順

ステップ1 アクティブなコール中にフック フラッシュを実行します。

これによりコールは保留になり、ダイヤル トーンが聞こえてきます。

ステップ2 2人目の番号をダイヤルし、相手が応答するのを待ちます。

ステップ3 電話会議を開始するには、フック フラッシュを実行します。

これで、両方の通話者が参加する電話会議が開始されました。

アナログ電話機のコール機能とスターコード

スターコードを使用して各コール機能にすばやくアクセスできます。スターコードの例は、*69 または *78 です。

スターコードは、ネットワーク管理者が個々のニーズに合わせてカスタマイズします。詳細については、ネットワークの保守担当者にお問い合わせください。

アナログ電話機で緊急コールを発信する

他のコールと同じようにアナログ電話を使用して緊急コールを発信します。緊急番号にダイヤルすると、ユーザをサポートするために緊急サービスによって電話番号と場所が取得されます。



Note コールが切断されると、緊急サービスからユーザに電話をかけなおすことができます。

Before you begin

物理的な場所を取得するようにアナログ電話（ATA 搭載）をセットアップする必要があります。緊急サービス担当者は、緊急コールを発信する際にユーザがいる場所を知っている必要があります。

Procedure

ステップ 1 受話器を上げ、ダイヤルトーンを確認します。

ステップ 2 緊急番号をダイヤルします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。